

---

# **二百文字詩集「虹色交差点」**

那音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「一百文字詩集「虹色交差点」」

### 【NZード】

NZ8485NZ

### 【作者名】

那音

### 【あらすじ】

いろんな声が通ります。

## 君の全部が好きだから

「どうしようもなく愛しくて、どうしようもなく羨しくて。  
君を遠くから眺めていたくて、君を近くに感じていたくて。  
君に好きって言いたくて、言えなくて。

どんな言葉を投げかければ、君は振り向いてくれるのかな。  
愛してるじゃ足りない。身体中から溢れ出すこの気持ちは、どう  
すれば伝わるの？

考えても答えはないんだ。

この気持ちを伝えるには、きっと言葉じゃダメなんだね。  
もつと君を好きになれば、勝手に言葉は出でくるのかな。

## 恥ずかしがり屋

ひづけに向いて。

だいじょうぶ、こわくないよ。知ってるだろ、そんなこと。

どうしたのさ、顔赤いよ。体調悪いの？

もうすいふん寒くなつてるんだから、風邪なんかひかないよつにな。

最近メールも電話も口クにしてないけど、ちゃんと言いたいことわかってるつもりだから。

てか、君は相変わらずの恥ずかしがり屋だから、ひつちが汲み取らないといけないでしょ。

すっかり君に慣れてしまつたからさ、もう今更なにがあつても動じやないよ。

## 笑っちゃいなよ

たとえば考へてる言葉がなにもかも伝わるとしたら、人間の文化で言葉は廃れていくんだろう。

そんな風にさ。泣いてばっかいると、笑い方忘れちゃうよ。  
悲しむのも大切だけど、僕はそんな君を笑えないよ。  
すこし寂しくても、思い出せればこつだつて近くにいるって思えるはず。

泣き顔が似合う君じゃないからや。

どんなに辛くとも前を向けとは言わないけど、俯いてばっかだと誰かにぶつかるよ。

落ち着いてからでいいから、前向こうひがせ。

君の道

向回せりてもつまらないとか、そんな壁にぶつかつたとして  
る。

そこでしがふとく続けらるか、あやひのわせうか、船せわせうぢつちだいひ。

そこだよ。逆をことなげなく触しないで、正角はひとことに

だからこそ人はそれぞれに最善の道を見たして、そこに進んでいくんじゃないかな。

それは1人で探すのは難しいだろうから、いろいろな人に手伝つてもらいながらさ。

## 信じてみればいい

ちょっとしたことでケンカして、いつの間にか自然と仲直りして  
る。

田まぐるしく変わる感情を整理できないから、その場しのぎと  
いつ言い訳で、嘘は勝手にでてくる。

嘘に嘘を塗り重ねて、嘘の終わりは嘘になる。

知らず知らずのうちに垂らした命綱が、そのうち自分の首を絞め  
るよ。

言葉にできないなら、無理に言葉になんかしないほうがいい。  
田を見ただけで伝わるような、そんな魔法を信じてみればいい。  
それなら、誰も傷つかない。

## 強い絆で結ばれる

気持ちだけが先走って、いまいかつまく動けない。  
結果だけがすべてじゃないけど、結果がよけりや、とりあえずはいいや。

嫌な事、辛い事があつても、それを乗り越えればそれまで以上に強い絆で結ばれる。

精一杯走つてそれがゴールにまつすぐ続いてるなら、後ろ気にしてるヒマなんかない。

誰かの足元救うよりは、誰かの前で進んでた方がいい。  
地を駆ける兎も、夢見ればいつか空翔る竜になれる。  
諦めるのは、まだ早かつたりするんだ。

## 新しい日々、新しい自分

新しい日々が始まる。

今までの事全部合わせて、そして新しい自分が作られていく。  
昨日までは見向きもしなかったものに、新しい発見を見いだすかもしれない。

世界中が祝福を受けて、そして少しずつ動いていく。

昨日までの震んだ世界が、喜びで満ち溢れていく。

ボクはどんな今日を過ごすのかは、相変わらずわからないんだけ  
ど。

そんな些細なこと楽しみにできるくらい心の余裕ができるやう。  
まあこれから、どんな出会いがあるんだろつ。

今すぐここに駆け出そう。

後戻りなんてしていられない。それがわかつていれば、振り返ることなんてしないはず。

時間は無駄にはできない。

誰かが指を指していくとしても、そんなの気にしないやいい話じゃん。

口ずさむその歌は、きっと誰かの希望になる。

いいことばかりある内に、たくさんたくさん笑つとけばいい。  
走つてしまつて疲れてる時に、振り返つて、来た道を見返すんだ。  
僕らはいつだって、そうして自分の自信にしていくんだろ。

## 好きって気持ち

君が得意氣に話している。

そんな君を見て、思わず「口二口」としているボクがいた。  
いつからだろ？。こんなに近くにいるのに、何かが物足りなく感じて。

言いたいことがあればあるほど、言えることが言えないくらい、  
時間は限られている。

こんなに苦しいのに、それでも地球は回転を止めたい。  
君を好きになればなるほど、君の前で素直でいられなくなる。  
そんな気持ちを追い払つよつて、今日も君の笑顔は輝いている。  
君を見つめるだけだ。

## あぐやまし。

本当は不安なんだよ。  
本当はこわいんだよ。

今にも逃げてしまいたくて、震えるんだよ。

だけど君のその瞳には、強い決意が見えているね。

何かをやろうとするとき、人は強くなれるから。

進め、どこまでも。君の道を。

向かい風に吹かれたって、きっとそこには、憧れたあの日の夢がある。

何もかもが嫌になつて、誰も信じられなくなつてさ。

だけど、そんな時にこそ、思い出してほしい。

すぐそばに、見えない愛はたくさんあるんだと。

## もう届かない

他愛もない話に華を咲かせ、毎晩のよつて語り口々々。いつ終わるかもしないのだから、いつでもいよいよ準備はしている。

昨日までは想像もしなかつたことが、ある日になり起きるかもしれない。

その中で何かが弾けるように、人は現実を自覚していく。もう届かないと思つていううちは絶対に届かないと教えてくれるのは、一体、どこのどなたでしょうか。自分で気づけなきや一生気づけないと、そんな言葉が、ふと、脳裏を過った。

それでいいや。

なにげないと怒つてみたり、気のないふりしてそっぽ向いたり。

言葉にはしたがらないくせに、曖昧な行動ばかりとつているね。がらくたばかりの青春だつて、最後に笑えりやそれだけでいい。求めるのは結果なんかじゃなくて、仲間と過ごししているこの瞬間。昨日笑えなかつたなら、今からそのぶん笑えばいいや。

一人で拗ねてる暇があるなら、笑いのタネでも探したがマシや。そういうふうに重なつてくる、そのくらいがちょうどいいや。

## 世界はまぶしく輝く。

気持ちがこもってるだとか、そんなんが言葉の価値を決めてる。誰もがカッコつけて名言を笑う時代に、ボクらはどれほど想いを言葉に託せるのだろう。

見過ぎしても、いつか世界は探し当てる。

隠し通せる謎なら、最初から謎として成立してはいない。誰もが知ってるはずなのに、誰もが知らないふりしてる。どんなにすばらしい名前があつても、その意味を知らなきゃ文字の羅列でしょう。

その意味を知ったとき、世界はまぶしく輝く。

## やしきひかる

たとえば。

走つたら早く進めるよ。

疲れるけど。

歩いて進んだら楽だよ。

時間が惜しくないならね。

毎日どれだけの選択を強いられて生きているのだろう。  
最善を選び続けるなんて、一体何人ができるいるんだろう。  
答えが見えないのは怖いことだけど、置いていかれるなはもっと  
怖い。

だから自棄になつて進んでる。じつくり考える大切さを忘れる。  
世界は安定性より速効性を望んでる。  
だからこそ、考えるべきは別なんじゃないの。

## 誰かを傷つけるくらいなら

誰かを傷つけるくらいなら、力なんかいらない。  
なにかを救える力がなにかを痛め付けるなんて、世界はひどく歪  
んでいる。

世界中に広められた愛の言葉は、形だけじゃないはずなんだ。  
だけど、強い力の前じゃ恐怖に上書きされて、言葉に自由はなく  
なる。

誰かとともににあるべきなのに、自分から突き放したがる。何がし  
たいんだろうね。

心の中に未来が見えてるなら、あるべき姿はわかりそくなもんな  
のに。  
少しほまともに成長できるかな。

その輪は、途切れることなく。

いつ始まつたかわからないから、いつたといつ終わるのかもわからぬ。

誰もが知つてそういうことこそ、以外と誰も知らない心理だつたりする。

目の前に続く道を歩くのも結構だけど、先人がいなきや道がなかつたつて事を忘れちゃいけない。

世界は平穏でいたがるけど、本当の平穏を知つている人間なんかいないんだ。

いつか気づく。気づかれる。

それが誰かに伝われば、それは誰かの明日に繋がるでしょう。

その輪は、途切れることなく。

## それが幸せ

嘘みたいに聞こえるかもしれない。だけど、本当なんだ。  
どんなに辛くとも、どんなに痛くても、君が笑つてさえくれれば、  
ボクはそれでいいんだよ。

手を繋ぎたいとか抱きしめたいとか、思わない訳じゃないんだけど。

そんな直接的なことよりも、君の幸せを願つてる方がボクらしい  
かなつて。

君の話に相づちをうちながら、君の話に深く沈んでいく。  
その声を深く感じて、また頷いて。  
そんなことができれば、ボクはきっとそれだけで幸せ。

## 好きとか嫌いとか

毎日のちょっとしたふれあい。

そんな時に感じるあなたの体温で、なんだかとろけてしまいそう。言葉なんか何種類もあるけど、言葉にしたらなんかもつたいたい。手を繋ぐだけで伝わるのなら、手を繋いでいたい。

できるだけそばであなたの温もりを独り占めしてみたい。  
好きとか嫌いとかじゃなくて、もっと深いここから求め合つみたい。

そういうことも言葉を必要としない、強い強い愛で結ばれたい。

それは、恋人っていうかな？

昨日と同じ今日なんて来ない。

僕たちは日々進化をして、ちょっとでもいい方に進んでいるはずだから。

あなただってほら、俯いてばかりいた昨日とはやめないうちをしたはず。

想いが揺らいで、自分がどうしようもなく小さく感じて、だけどやっぱり嫌いにはなれないんだ。

だったらそれでいいんだよ。

毎日の繰り返しで変わるものと変わらないもの、それがしつかりとわかっているはずなんだから。

じやなきやほら、そんな風には泣けないよ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8485z/>

二百文字詩集「虹色交差点」

2012年1月13日22時48分発行